

多彩な研究成果を披露

学生の関心も高かった
コーチングコースの
アカデミックアワー



学生参加が目立ったコーチングのアカデミックアワー

第3回を迎えたアカデミックアワーは、7月1日に大ホールで開かれ、コーチングコースから植田実教授、佐々木直基講師、白木孝尚講師の3人がそれぞれの専門分野で取り組んでいる研究成果を発表した。

テニスやバスケット、サッカー部などコーチングを学ぶ学生らが大勢集まり、アカデミックアワーもキャンパスの学術的なイベントとして関心が高まってきた。とくにクラブ活動の監督が演壇に立ち、コートやプールなどの指導現場とは違う研究者としての「二面」が見られるとあって、集まった学生らは熱心に耳を傾けた。テニスの植田教授はバルセロナで過ごした2年の海外研修の体験を基に、

世界でも指折りの強豪国になったスペインの選手育成システム、テニスクラブの環境など幅広い視点でとらえたテニス観を話した。とくに男子のトッププレイヤー、ナダルの育った背景や成長過程を指導者としての植田の「目」で分析した報告に関心が集まった。

バスケット部を指導する佐々木講師は、「実技科目におけるスキル獲得のための視覚的フィードバックの導入について」をテーマに実際のバスケットの実技授業で試みている映像を使ったユニークな研究成果を発表した。ダートフィッシュと名づけられたソフトを使い、いい動きの映像と失敗した映像を比較、重ね合わせることでいい動き（スキル）

の習得、例えば、シュート力が上達するなど「できない人」をできるようにさせる「プログラム」を紹介。また、言葉の指導による訓練よりも実際の映像を使うことで、その習得はよりスムーズになるという。すでにダートフィッシュを使った実験データーを興味深く聞いていたテニス部員を前に同講師は「ストロークの打ち合いで持久勝負になるうちの女子テニスの選手に適している飲料かもしれない」とアドバイスしていた。

ため、胃から腸への移送が早く糖分エネルギーとして長く利用できるという特徴がみられた。白木講師は収集したデーターからは持久性スポーツに適したドリンクであることを示唆していた」と解説したが、この実験データーを興味深く聞いていたテニス部員を前に同講師は「ストロークの打ち合いで持久勝負になるうちの女子テニスの選手に適している飲料かもしれない」とアドバイスしていた。

いい汗かきました
人気講義の体カトレーニング法

今春入学したフレッシュマンには、ツユの季節はなんとなく気分も滅入りがち。五月病のあとにやってくる中だるみのこの時期の解消策として学生たちに人気のある講義が「体カトレーニング法」。柔道場で行われた7月2日の講義をのぞいた。



バランスボールを使った体トレの実践授業は学生に人気

長澤まさみが出演したTVドラマ「ラストフレンズ」や同世代の綾香の「夢を味方に」の軽快なソングが流れ、そのテンポに合わせるように1年生たちがバランスボールを使ったさまざまな運動にチャレンジする。バランスを巧みに取る佃文子准教授のお手本をみながらのエクササ

イズは、簡単なようでも難しい。学生らはまるで子どもこのようにボールと一緒に転がったり、転んだりで小学生以来の大騒ぎの運動だが、みんな晴れやかで楽しそう。だから、ボールをうまく扱えない受講生たちには返って「やる気」を起させる。開学から「体トレ」を工夫しながら取り組んでいる佃先生は、「キャンパスや部活に慣れ始めるこの時期は、希望に燃えて部活に入ったもののレギュラーになれずに落ち込んでしまふことも多く、そして比良の梅雨に追い打ちを

かけられる。そんなときに体トレの授業から運動を楽しむことを思い出す。楽しみながらのトレーニングを実践すれば、新しい自分が見えてくる」と強調する。実際、学生たちの評価は高く「しんどかったけど楽しい」「スポーツ大学らしい授業でトレーニングの楽しさを学んだ」「いい汗かきました」「家でもボールを買ってやってみます」。

今年5月、オーストラリアキャンベラで開催された第1回日豪対抗において、入江陵介選手（近大）が200m背泳ぎで1分52秒86の世界新記録を樹立した。アメリカのライアン・ロクテ選手が持っていた従来の記録（1分53秒94）を1秒08も更新した大記録であった。しかし、この記録が正式に公認されることはない。というのも、入江選手が着用した水着が5月の国際水泳連盟（FINA）の水着承認会議で「要修正」と判断されたからである。これにより入江選手が着用した水着は国際大会での着用が認められていない水着と判断され、世界記録は公認されなかった。一方、日本水泳連盟には明確な水着の規定がないために、この記録を公認してしまった。

よって現在の男子200m背泳ぎの日本記録は世界記録よりも速いという「ねじれ現象」が起きている。（6月より日本新記録はFINA公認水着のみ公認、高校記録や中学記録は対象外となった）

昨年の北京オリンピックでSpeedo社のLZRが猛威をふるってから1年足らずの間に、新たな水着問題が競泳界を襲っている。今年の水着問題の主役は「パワー系水着」である。いわゆるウェットスーツに使用される素材を用い、抵抗だけでなく浮力の面からも選手をサポートする水着である。昨年も「バイオラバー（たこやきラバー）」の水着が少し取り上げられたが、LZRの猛威に掻き消された感があった。今年はSpeedo社以外の企業がこぞって



コーチ、そして観客が楽しめるようにしなければならぬ。昨年のジャパンオープンで北島康介選手が「泳ぐのは僕だ」というTシャツを着て無言のアピールをした。水泳関係者は「何のため、誰のための水着か」という倫理観を根本的に見直す必要がある。目先のことはあるが、この夏の国内主要大会において非公認水着による日本新記録が出ないことを祈るだけである。

（競泳スポーツ学科
競泳監督 白木孝尚講師）

スポーツマネジメント研究にも求められる

CHANGE(変革)



21世紀の変革が話題になった北米マネジメント学会

1986年6月に、第1回大会を米国オハイオ州セント州立大学の主催で開催し、以後毎年6月の第1週にカナダとアメリカ合衆国の大学間で開催される北米スポーツマネジメント学会（North American Society for Sport Management・以下NASSM）は今年で24年目を迎えた。

NASSMが設立された1980年代は、オリンピックがロサンゼルス大会で大変革を遂げ（テレビ放映権料の独占販売、スポンサーシップの切り売り、五輪マークの使用権の販売など）による民間主導の財源捻出、以後スポーツイベントにおいてコマースリズムが席巻していくことな

った。また、時を同じくして、マイケルジョーダン（NBA）、ジョー・モンタナ（NFL）などのスーパースターの誕生に加えて、大規模スポーツスタジアムの建設ブームが始まり、北米の4大プロスポーツと大学スポーツのマーケットは急速に成長した。そしてスポーツ産業の発展は、スポーツビジネスの担い手となるスポー

ツ経営者の養成を後押しし、大学におけるスポーツマネジメント学部設置と学問的知識体系の確立に拍車をかけることになった。

このように、スポーツ産業規模の拡大と、それに伴って発生した専門家の養成に対するニーズの高まりが、大学教育としてのスポーツマネジメントの整備に貢献したものと考えられるが、そのようなかで、1986年に設立されたNASSMには以下の3つの大きな機能がある。（1）高等教育機関で提供すべきカリキュラムを審査、認定し、乱立するプログラムを制御する機能、（2）スポーツマネジメントの特性や独自性を踏まえた知識体系を整備する機能、（3）商業化と国際化を背景に、急速に発展を遂げるスポーツ産業界の変化に対応した新しいロジ

ック、概念、理論を構築し、提供するコンサルティング機能である。

この学会は、スポーツマネジメントの分野では世界最大規模のカンファレンスであり、最先端のスポーツマネジメント研究を把握するために欠かせない位置づけとなっている。学会における情報収集は、研究動向の把握に加え、今後学会が推奨する重要研究課題の理解にもつながることから、わが国のスポーツマネジメント研究においてリーダーシップを発揮していくための新しい考え方、アイデア、視点、アプローチを獲得する上で非常に有益である。学会設立以来、マーケティング、スポンサーシップ、リーダーシップ、人材管理などに関する研究が多い中、近年の新しい傾向として、企業の社会的責任、ボランティア、

ブランディングなどが、研究発表件数の上位に浮上してきたことは、非常に興味深い。特に、環境問題の深刻化に伴って関心が增大している企業の社会的責任を、どのようにスポーツマーケティングに生かしていくか、という疑問について、多くの研究者が検討し始めていることを今回、強く認識できたことは大変大きな収穫だった。

21世紀はより良い社会を創造するための変革の時代である。国際化、科学技術の発展、地球環境の変化が進む中、スポーツマネジメント研究も、時代を反映した新しい論理を構築する必要がある。今回のNASSM学会は、それを改めて感じさせてくれる機会となった。

（競技スポーツ学科
吉田政幸講師）

暑い夏は多くの競技、種目のトレーニング期あるいは競技会に備えた調整期になりますが、ハードな練習と暑さのせいで食欲が落ちてしまう人も多いはず。だからこそ、しっかり食事を食べなければハードな練習の成果も意味のないものになってしまいます。

夏バテに負けない食材として有名なのは何といっても「うなぎ」ですが、毎日鰻を食べるわけにもいきません。そこで、安価で常備しやすい食材を使って、手軽にできる夏バテ予防のメニューを作ってみました。お薦めはさっぱり栄養満点の冷製パスタです。

冷製パスタの作り方

男性1人前の分量…809kcal 調理時間：15分
パスタ 150g、ゴーヤ 1/4本、トマト 小1個
豚薄切り肉 60g、オリーブ油 小さじ2杯
めんつゆ 大さじ2杯、黒こしょう 少々

【作り方】

- 鍋に湯を沸かして塩を入れ、パスタを茹でる。その間に、ゴーヤのわたをスプーンで取り、薄切りにする。トマトはざく切りにする。パスタのゆで時間が残り1～2分くらいになったら、ゴーヤと豚肉を加え、一緒に茹でる。
- 1をざるにあげ、手早くオリーブ油と絡めて黒こしょうを振り冷やす。
- 冷えたら盛り付け、トマトを乗せてめんつゆをかければ出来上がり！

パスタのゆで時間や冷ましている間にもう一品！

・かぼちゃをイチヨウ切りにし、レンジで2分。
すぐにレモン汁、はちみつ各小さじ1杯を和えれば、かぼちゃのレモン煮が完成。

◎一口メモ

夏に旬を迎えるトマト、ゴーヤ、きゅうり、かぼちゃなどは、汗で失われる水分とともにビタミンやミネラルが豊富に含まれています。ゴーヤやトマトには、ストレスや疲労に打ち克つβ-カロテンやビタミンCがたっぷりです。豚肉には、疲労物質の分解に重要なビタミンB1、ナイアシンが豊富に含まれています。

- 冷製パスタ（809kcal）・かぼちゃのレモン煮（130kcal）
- きゅうりとわかめの酢の物（30kcal）
- フルーツヨーグルト（90kcal） 合計1060kcal

（競技スポーツ学科 中村亜紀講師）

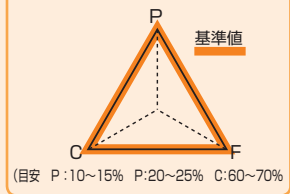
亜紀のお料理
教室
夏バテに
喝！



夏バテ対策のお薦め冷製パスタ

夏バテ防止メニューバランス
3大栄養素

P たんぱく質 : 14.8%
F 脂質 : 20.1%
C 炭水化物 : 63.5%



（目安 P:10~15% F:20~25% C:60~70%）